



表紙
小林英樹「RADIOACTIVITY」
紙に数種類の筆記用具
1985年

(表紙絵の解説)

かつて、ぼくは来る日も来る日も阪神電車で揺られながら大阪と神戸の間を行き来していた。ぼくはある種の物憂さに支配され、そこに存在していることに漠然と飽いていた。灼熱の太陽が真っ黒なぼくの影を地面に落とす夏の午後、須磨の松林からぼくは無数のガラスの破片をちりばめたような海をめがけて歩いているうちにまどろみ、そこに横たわり、そのまま目を閉じ、降り注ぐ無数の素粒子のなかに自分があることを感じた。

小林英樹